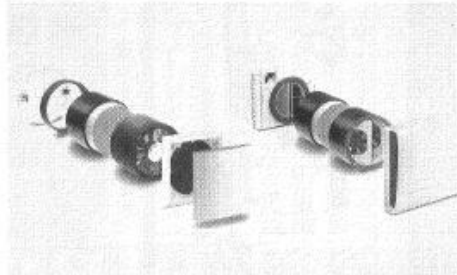


温水パネル用いた暖房システムで実績

森永エンジニアリング

換気商品はダクトレスの熱回収

森永エンジニアリング（社長 小野寺優氏、本社・東京都港区港南3-8-1）は住宅機器販売事業で海外メーカー製の暖房システムや換気システムなど、多彩な輸入商品を取り扱う。とりわけ温水パネルを用いて暖房するセントラルヒーティ



ダクトレス呼吸型熱回収換気システム

ンクシステムの販売で45年以上の実績がある。現在も同システムの国内展開で高占有率を維持する

一方、近年は海外メーカー製のダクトレス呼吸型熱回収換気システムの販売も開始した。セントラルヒーティングシステムの展開で前例を築いた住宅市場で同換気システムを拡販したい考え。

設、システム制御、排水処理施設、住宅機器販売の4分野で事業を展開している。このうち住宅機器販売事業では、欧州のメーカーが製造する暖房用放熱器、密閉膨張タンク、エアセパレーター、換気システム、排水通気弁、脱気・圧力保持システムなどを取り扱う。特に住宅向けの暖房システムでは、欧州のリディングヒートンク社製の温水パネル「サーモパネル」を用いたセントラルヒーティングシステムを自社ブランドとして販売している。前身となる会社が1971年にサーモパネルの日本国内での販売を開始して以来、管材御商社経由でハウスメーカー、工務店ルートに商品を展開。現在は北海道



土肥 明人 社長

や東北など北日本エリアでの新築住宅市場で採用実績を積み上げている。森永エンジニアリングが販売する「森永セントラルヒーティングシステム」の特長は、ふく射熱と自然対流によるやわらかな暖かさを追求したものの、ポイラーなどの熱源機で作った温水をサーモパネルに通し、パネルから年じるふく射熱によって部屋全体を温度ムラなくじんわりと暖め、室温を均一に保つ。温風式暖房機器のように風を吹き出すことがないため、ほこりの飛散を抑え、衛生的なシステムを構築できる。室内で火気を伴わないことから、やけどなどの心配が無く、子供や高齢者が暮らす住宅や施設でも安心して使用することができ、大阪営業所の土肥明人社長は「温風暖房機のような騒音が無く、室内の乾燥感も少ない。窓下に温水パネルを設置すると、コールドドラフトを解消して窓の結露の抑制にもなる」と話

す。一方、同社は北日本エリア以外でも日本国内で広く販売できる新商品として、ドイツのルノス社製のダクトレス呼吸型熱回収換気システムの販売を2016年3月から開始した。自社ブランド

「森永ルノサン換気システム」として販売しており、現在日本国内の住宅市場に訴求している。換気の際に排気する空気から熱を回収し、給気する空気にもその熱を移動させて室内に戻す第1種熱回収換気システムを構成するもの。第1種熱回収換気システムは住宅内に給気と排気それぞれに独立したダクトを施工するのが一般的だが、森永ルノサン換気システムはダクトレスである点が特長。森永ルノサン換気システムのファンが1台は給気、他

の1台は排気を行い、50秒ごとに双方のファンが同時に反転することで給気と排気が切り替わる仕組み。排気側は内部の蓄熱エレメントに熱を蓄積しながら、給気側は蓄熱エレメントから熱を回収しながら換気を行い、熱損失を減らし空気だけを新鮮な外気と入れ替える。ダクト不要で暖房や冷房の熱エネルギーを最大90%以上回収することが可能。建物が呼吸しているような感覚の換気システムで省エネを実現する」（土肥社長）という。

日本国内では建築物省エネ法によって、住宅の省エネ性能評価に窓や外壁などの外皮性能を評価する基準が設けられた。同法に基づき今後、高気密・高断熱住宅の一層の普及が見込まれる。同社が販売するセントラルヒーティングシステムやダクトレス呼吸型熱回収換気システムは高気密・高断熱住宅との親和性が良い。この点を同社は貢献する暖房・換気システムとして両商品を訴求していく方針だ。